

生誕の地「千種本町 1 丁目」

阪野智夫さんの近刊『わが六十路の生前遺稿集』に触発されて、久しぶりに生誕の地を訪ねたくなった。

大学から滝子商店街を通過して「郡道」をまっすぐ北に向かい、吹上「浩養園」裏をすこし行くと千種区千種本町 1 丁目あたりに出る。写真

は国道 153 号線・飯田街道であり、八事から豊田・足助そして飯田・伊那を経て松本まで通じている。懐かしい飯田街道の右奥に「鉄道官舎」があった。下の写真は街道から一本なかに入った道から撮ったもので、左上の方に位置する。レポートに書いたこともあるが、

親父が国鉄マン（当時は名古屋機関区に勤務）であり、千種本町の鉄道官舎で生まれ育った。官舎は 2 階建ての「共同住宅」であり、ながい廊下の端に共同トイレがあった。2 階の角の部屋（2 間）が自宅であり、2 階から

転落した（頭でっかちによるという説もあるが、不思議なことに怪我はなかった）こと、

伊勢湾台風のときの強風などが思い起こされる。官舎があったところにはマンションが

建っていた。駐車場になっているあたりは、官舎の広場

があったところで、よく草野球をやったものだ。幼少の

ころは、とにかく病弱であり、近所の医者から「いつま

でもつか」と宣告されたという。よくもったものだ。

千種小学校に入る頃には、だんだん元気になり広場で飛び

回るようになった。5 年になると池下に完成した「高見町アパート」に引っ越した。この官

舎に比べ近代的な「2DK」の団地暮らしとなった。ここも再開発により、大規模なマンシ

ョンや店舗が建設されつつある。生まれ育ったところが消えていくのは、やはりさびしい

ものだ。

（2006 年 6 月 5 日 記）

